

令和5年第5回（11月）掛川市議会定例会
代表質問発言順序

1 創世会 (15番 藤原正光 議員)

2 新しい風 (11番 藤澤恭子 議員)

3 日本共産党議員団 (12番 勝川志保子 議員)

4 共に創る掛川 (14番 鈴木久裕 議員)

5 市民派・公明倶楽部 (20番 山本行男 議員)

令和5年第5回（11月）掛川市議会定例会
代表質問発言順序（予定）

11 / 29 AM

創世会 （15番 藤原正光 議員）

新しい風 （11番 藤澤恭子 議員）

11 / 29 PM

日本共産党議員団 （12番 勝川志保子 議員）

共に創る掛川 （14番 鈴木久裕 議員）

市民派・公明倶楽部 （20番 山本行男 議員）

代表質問通告要旨

【会派名：創世会】

議席番号	15	氏名	藤原正光	質問の方式（一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括）
------	----	----	------	---

1 令和6年度掛川市行政経営方針について （答弁：市長）

市長は、4年任期の最後の年に向けて、令和6年度の行政経営方針を示した。そこで、コロナ禍をはじめ、日々状況が変わる中、限られた財源で足元の課題を見つめ、未来に希望が持てる政策を打ち立てる施策について伺う。

- (1) 来年度は、長引くコロナ禍やウクライナ危機、物価・原油高といった不安定かつ危機的な状況をどのように捉え、取り組んでいくのか伺う
- (2) 市民との対話を進める中で、長期的な物事をどう見定めるのか、既存事業の廃止や整理、また未来への投資をどのように考えているのか伺う
- (3) 高校生の地域への愛着や定住志向は減少傾向が顕著となっているが、高校生の居場所づくりのためにワークショップなどの対話が必要と考えるが、見解を伺う
- (4) 多死社会を起因とする諸問題への対応を全ての分野における共通事項としていくとのことだが、孤独死が急増している現在、終末期サポートにも取り組むべきと考えるが、見解を伺う

2 掛川市行政経営方針に基づく重点施策について （答弁：市長）

第2次掛川市総合計画や、第2期地域創生総合戦略の行政評価の結果を踏まえ、目まぐるしく変化する社会情勢に適切に対応し、持続可能な行政運営を確立するための戦略の柱別重点施策について伺う。

- (1) 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の予防接種は、感染対策や罹患後の重症化予防として大変有効性が高いことから、接種費用の助成ができないか伺う
- (2) シニアクラブについて、年齢による画一化を見直し、希望に応じて就業・所得や、健康・福祉、学習・社会参加などに意欲・能力を生かして活躍できる高齢者のコミュニティとしての在り方を含め、再考できないか伺う
- (3) おむつリサイクル・ごみ減量推進会議が設置され進められているが、これまでの会議の協議結果に対する評価と手応えを伺う
- (4) 新東名高速道路倉真第2PAにスマートインターチェンジを設置し、取得した土地4.9ヘクタールの方針、利活用の設計図を示し、防災拠点としても整備すべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 東名掛川インターチェンジ開通の30年を振り返り、これまでの効果をどのよ

うに検証し、また、今後より活用していくには、どういう施策が必要と考えているのか、見解を伺う

- (6) 救急患者搬送数が増加する中で、救急車両台数などの体制見直しが必要と考える。本市に中東遠総合医療センターが立地していることから、中東遠地域における転院搬送を含めた救急患者搬送体制の現在の状況と在り方、今後について伺う
- (7) 消防団の報酬などの直接支給を含め、条例改正などがされていく中で、社会環境の変化に対応した消防団運営への支援について、所見を伺う
- (8) ふるさと納税への取組について、地域活性化や地域の関係、交流人口増加への寄与といった良い側面を伝えるG C F®の品目の開発やトップセールス訪問による企業との信頼関係の築き方が大事だと思うが、見解を伺う
- (9) D X推進計画では、具体的な施策が見えないが、今後、スマートシティの実現に向けて具体化させていく「掛川スマートシティ構想」が必要と考えるが、見解を伺う
- (10) 「働き方改革2.0」が始動され、エンゲージメントに注目した改革にバージョンアップしていくが、職員が仕事に誇りと情熱を持ちチャレンジしている職場を目指すには、仕事の断捨離が必要と思うが、見解を伺う

※G C F®（ガバメントクラウドファンディング）

自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る仕組み

代表質問通告要旨

【会派名：新しい風】

議席番号	11	氏名	藤澤 恭子	質問の方式（一問一答・一括）
------	----	----	-------	----------------

1 市政運営と掛川市の展望について

（答弁：市長、教育長）

「人」と「環境」の持続可能性を柱にした本年度の施政方針は、順調に進んでいるであろうか。気候変動やエネルギー問題、人口減少など、山積する課題には、どれをとっても一層のスピード感のある解決が求められる。これまでにない状況変化に応じ、さらなる改革と柔軟性のある市政運営のかじ取りが必要なことから、以下について伺う。

- (1) 本年度は、効果的かつ効率的に事業を進める組織として、人事課をはじめ、ダイバーシティ戦略室や障がい福祉室など、6つの組織が新設されたが、その効果と進捗を伺う
- (2) 本年度の地区集会は、平日の日中に開催されたが、その成果と課題、来年度の地区集会の方向性を伺う
- (3) 掛川城周辺を回遊する仕組みなど、まちなか活性化やまちづくりを見据えた一帯整備への考え方や、中長期的計画の展望を伺う
- (4) 女性が輝く社会の実現のための一つとして、経済産業省では「フェムテックの推進」に取り組んでいる。掛川市においては、どのような活用を考えるか伺う
- (5) 農業従事者の担い手不足など、持続可能な農業への取組が急務であるが、農業用GPSの導入など、DX化を支援する策への見解を伺う
- (6) 基幹産業である茶産業の低迷対策などとして、茶業版フェアトレード認証制度の創設を掲げたが、その進捗と展望を伺う
- (7) 急速に早まった多死社会への課題と対策を伺う
- (8) 歩道の街路樹や公共施設内の植栽の管理が行き届かず、歩行者や車いす、シニアカーの通行、通学などに支障を来しているところも見られる。市内の景観や維持管理も踏まえ、街路樹や植栽を削減する考えはないか伺う

※フェムテック

女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービスのこと

※茶業版フェアトレード

茶生産者の保護のため消費者に適正価格での購買を求めること

2 大規模災害に備えた減災対策について

（答弁：市長、教育長）

我が国では近年、ほぼ毎年のように大規模災害が発生し、掛川市においてもその例外ではなく、各種防災体制の一層の強化に取り組んできたところである。住民による適切な避難行動や迅速な人命救助、二次災害を生まないための避難所の環境改善など、「命を守りつなげる」ことの重要性を再認識している。しかし、防ぎようのない自然災害は今後も頻繁に起こる可能性が高いことから、減災への取組を強化することが重要であると考え、以下を伺う。

- (1) 市役所正面の駐車場を、大規模災害時に備え再整備する考えはないか伺う
- (2) 子どもたちがみずからの命を守るための減災や防災教育を、全学年の授業や地域部活に取り入れるべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 高校生ドローン隊など、活躍が期待できる市内の高校に、特徴ある学びとして防災学科などの設置を積極的に要望活動する考えはないか、伺う
- (4) 静岡市は令和4年台風15号の断水の経験から、災害時協力井戸制度の導入を進めているが、掛川市でも導入する考えはないか伺う

3 人づくり、地域づくりの充実について

(答弁：市長、教育長)

全ての子どもの健全な育成から安定した老後の生活まで、市民が生き生きと生活が送れるよう、当市ではさまざまな施策を講じている。一方で、地域とのつながりの希薄化や社会の変化などから、自治会の運営に苦慮している。自治会における人の持続可能性の対策として、業務の効率化や軽減が必要であると同時に、人づくりや地域づくりにも重点を置くべきである。郷土愛を育むことは将来的に地域づくりへとつながる。それぞれの個性を尊重した、ぬくもりある掛川市であるために以下について伺う。

- (1) 家庭教育や社会貢献、地域交流などから得る自己肯定感の向上や存在価値の認識は、人づくりに大きく影響する。そのための環境整備の再構築や市民活動の立ち上げ支援の強化など、抜本的な対策への見解を伺う
- (2) より実践的な家庭教育や食育の推進を図るため、児童生徒がみずから作る「お弁当の日」を設けてみてはいかがか、見解を伺う
- (3) ラーケーション制度を導入した自治体があるが、掛川市においては、どのような考えか伺う
- (4) 発達相談支援センター「のびる〜む」の開設から5年が経過し、本年度は発達相談支援室が新設され、その期待値が高まる。一方で個性を生かし、多様な学びや療育の場のさらなる拡充が必要と思うが、今後の展望を伺う

※ラーケーション制度

公立の小中学校と高校などで、保護者との「校外学習」をするために平日に年

間3日の休みが取れ、欠席扱いにならない取組。また有給休暇の取得を促すことや子どもと過ごす時間を確保できるなど「休み方改革」の一環のこと

代表質問通告要旨

【会派名：日本共産党議員団】

議席番号	12	氏名	勝川志保子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 人の持続可能性と住みやすいまちづくりについて (答弁：市長、教育長)

住民が住みやすいまちづくりが人口減を食い止める。開発、企業誘致といったハード整備重視から、ソフト面の人の住みやすさに予算配分の軸足を移すことが重要であると考え、以下を伺う。

- (1) 住民の満足度を上げる政策を中心に据えることで、流入も含めた人口増加が図られると考えるが、見解を伺う
- (2) 子育て支援で経済の好循環を生み、少子化を食い止めている他市の事例を教訓化し、所得制限を設けない支援予算を思い切って拡充すべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 子どもは社会が育てるという姿勢への転換で、子育てを社会化し、子育て世帯の負担を減らす無償化の拡大を行うべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 公が責任を持つ形でのドアツードアの交通政策への切り替えにより、交通弱者の移動の権利を保障し、どこでも住み続けられるまちづくりを進めるべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 学校を含めた公共施設のマネジメント計画は、コスト面だけでなく、どこにでも住み続けられる地域の維持という視点で再検討する必要があると考えるが、見解を伺う

2 環境の持続可能性について (答弁：市長、教育長)

環境資源ギャラリーのごみ全量外部搬出、施設更新も計画され、環境問題への市民の関心も高まっている。カーボンニュートラルを達成し、持続可能なまちとなるための市の環境教育と施策を伺う。

- (1) ごみの全量外部搬出を選択するというピンチを、ごみの分別と燃やすごみの減量化について市民が学び実践するチャンスと捉える施策を伺う
- (2) 市役所などの公共施設を手始めに、ごみの展開調査などを行い、データに基づいた市職員の意識改革や減量作戦から市民全体の意識向上が図れないか伺う
- (3) ごみ問題への意識変革を図るため、市民向けに幅広くリサイクル現場への視察やごみ減量講座などの環境教育を行うことができないか伺う
- (4) もったいないを考える日にワークショップを行うなど「掛川市もったいない

を合い言葉にカーボンニュートラルを推進する条例」の活用施策を伺う

- (5) キューロの活用や枝葉のコンテナ回収などの助成を復活・充実させ、生ごみや落ち葉、剪定枝などを燃やさず活用するための施策を伺う
- (6) 今後、子育てや介護の支援にもつながる紙おむつ処理施策を期待するが、考えを伺う
- (7) 学校給食を子どもたちの環境教育の場としても捉え、牛乳パック仕様の変更とストロー廃止、パックの再利用徹底や残渣処理の学習などができないか伺う
- (8) 学校、こども園、学童保育所など子どもたちの施設への太陽光パネル設置拡大や蓄電、送電も含めた活用を広げ、地産地消のエネルギー循環型社会を子どもたちが学ぶ機会とできないか伺う
- (9) 学校給食への地場農産物や有機米などを無償化政策とセットで政策的に取り入れることで、オーガニックビレッジ宣言を具体化し、農業を守り、耕作放棄地の拡大を避ける後押しをするべきと考えるが、見解を伺う
- (10) 気持ちよい環境維持ができるよう維持管理予算を増額し、業者委託や草刈り業務員の拡大をするべきと考えるが、見解を伺う

3 広域行政下における市の果たす役割について

(答弁：市長)

国はDX推進とともに、自治体の枠を超えた広域化を行っている。統廃合された保健所がコロナ禍で機能不全に陥ったように、各自治体の施策への責任が薄くなる広域化は、命と暮らしを守る住民自治を空洞化させかねない。公共の役割をしっかりと果たすため、広域化された事業についても市の責任ある関与が必要と考え、以下伺う。

- (1) 広域化が進む事業についても、市としての政策目標に沿った立案、計画のもと、市の政策が反映される体制が大切だと考えるが、見解を伺う
- (2) 公立病院である中東遠総合医療センターの運用や整備などには、市の保健医療政策や市民要望を反映させるべく、意見を述べ責任も持つべきだと考えるが、見解を伺う
- (3) 環境資源ギャラリーについては、市の環境政策を反映させた運営のために関与と提案が重要だと考えるが、見解を伺う

代表質問通告要旨

【会派名：共に創る掛川】

議席番号	14	氏名	鈴木久裕	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 市長のまちづくりビジョンについて (答弁：市長)

久保田市政となって2年7か月、市民から「市長が掛川市をどのような都市にしたいのかわからない」、「就任以来、対話とチャレンジを旗印に掲げているが、よくわからない」との声がしばしば聞かれることから、以下の点について伺う。

(1) 市長が考える掛川市の将来像や展望について、具体的にわかりやすく市民に浸透を図るべきと思うが、所見を伺う

2 大規模事業を確実に実施していくための長期財政計画の必要性について (答弁：市長)

小中一体校の建設や新しいごみ処理施設建設負担をはじめ、大規模な施設建設事業が予定されている。特に小中一体校については、市内の教育環境を等しくする観点から、なるべく短期間での整備完了が望ましく、「30年計画」では悠長すぎる。可能な限り短期間で整備していくためには、どこまで借金ができるかなど財源計画も含めて長期的な財政計画が不可欠であると思うが、考え方を伺う。

(1) 長期財政計画を立てることについて、見解を伺う

(2) 実質公債費比率や将来負担比率などの水準(安全・注意・危険)を勘案しながら、いくつか財政計画のパターンを示し、市民の理解を得ながら進めることが大切と思うが、見解を伺う

(3) 小中一体校のほか、新東名倉真第2PAとスマートIC、掛川東環状線や南西郷開発、新生涯学習センター、野球場など、市の成長に必要な事業や市民から待望されている事業についても、ある程度のスケジュール感を示していくべきではないかと思うが、見解を伺う

3 地籍調査事業のさらなる推進について (答弁：市長)

現在、平成24年度に策定した新地籍事業30年プランに沿って、担当課により鋭意、事業が進められていると承知している。しかし、このプランが完了しても、市全域が地籍調査完了とはならないことを考えれば、さらなる推進も必要ではないか。そこで今後の推進方策について伺う。

- (1) 現時点において、30年プランで達成予定の面積46.03km²と、既に完了している区域のほかに、地籍調査未完了区域の面積はどの程度あるのか伺う
- (2) 上記の区域についてはどのような推進を図っていくのか、方針を伺う
- (3) 全国的に事業が行われており補助金の確保などの困難もあろうが、庁内の体制と予算を拡充して、一層の推進を図るべきではないかと考えるが、見解を伺う

代表質問通告要旨

【会派名：市民派・公明倶楽部】

議席番号	20	氏名	山本行男	質問の方式（一問一答・一括）
------	----	----	------	----------------

1 認知症対策への取組について （答弁：市長）

掛川市では、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、かつ認知症に関わらず住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまちづくりに向けてさまざまな取組をしている。今回、新たに成立した「認知症基本法」では地方公共団体の責務についても記されていることから、以下について伺う。

- (1) 認知症基本法の成立を受け、今後どのように取り組んでいくのか伺う
- (2) 今後、認知症施策推進計画を策定していく考えはないか伺う
- (3) 賠償責任保険を導入していく考えはあるか伺う

2 ふるさと納税について （答弁：市長）

総務省は、この10月1日からふるさと納税のルールを変更した。今回の改正の主な点は、納税にかかわる経費のすべてを寄付総額の5割以下で賄うこととした点である。

掛川市でも平成20年から導入し、現在、約10億円近くまでになったふるさと納税であるが、今回のルール変更でさまざまな影響が生じると思われるため、以下について伺う。

- (1) 返礼品のお茶やイチゴ、メロンなどの生産者に影響が生じると思われるが、その対応を伺う
- (2) 返礼品と経費で5割以下という新ルールへの対応を伺う

3 東部エリアの諸課題について （答弁：市長）

現在、市の東部エリアでは、千羽のJA掛川市本所周辺や旧国一沿いの西山口地区周辺の住宅造成などが著しく、世帯人口も増加している。商業施設なども出店し、昔の面影がないほど発展している。また、市の主要施設である環境資源ギャラリーを有し市民の環境整備に寄与している。このエリアの問題・課題について、以下の点を伺う。

- (1) 現在、満水区と市は、環境資源ギャラリーの協定締結に向けた協議をしてい

るが、その進捗状況と方向性について伺う

- (2) なぜ一般廃棄物の処理が全量外部委託になったのか、説明が足りないとの声があるが、ここに至るまで、市は施設補修を求められた際にどのように対応したのか伺う
- (3) 掛川東環状線について、今後の取組の方向性について伺う
- (4) 掛川・浜岡バイパスの整備は、一向に進捗していないが、今後どのように進めていくのか伺う